目　次

序
小山三郎（本巻責任編集者）…… 7

第１部　帝国の版図として──融解する境界と経済圏

第１章　日露戦争と台北米穀商
──陳源順号を中心に
林　玉茹（中央研究院台湾史研究所研究員）…… 13

第２章　台湾塩の朝鮮進出
──帝国経済圏における資源移動をめぐって
蔣　允杰（福岡県立大学基盤教育センター講師）…… 33

第３章　戦時台湾における企業整備に関する規則と機関
──日本との比較
湊　照宏（立教大学経済学部教授）…… 51

第２部　破壊と創造の時代──戦争が変えた人々の生活、文化界

第４章　重慶国民政府の戦時社会の日常生活に対する管理
──蔣介石の「戦時の健全な娯楽」構想を例として（1937年―1945年）
王　超然（国立台北大学歴史学系助理教授）…… 75

第５章　中国近代音楽史の転換点としての戦争
──音楽家の大移動と戦時首都重慶
榎本泰子（中央大学文学部教授）…… 103

第 6 章　胡適
　　──知識人と京劇
　波多野眞矢（慶應義塾大学文学部非常勤講師）…… 129

第 7 章　第二次世界大戦後の香港における残留日本人・訪中者・旅日華僑
　　──帝国のネットワークの残滓と冷戦下の交通
　村井寛志（神奈川大学外国語学部教授）…… 147

第３部　戦時下の台湾社会──産業振興と人々の暮らし

第 8 章　日本統治期台湾における水資源総合利用構想の形成について
　簡　佑丞（国立台北大学民俗芸術与文化資産研究所助理教授）…… 173

第 9 章　板橋酒工場の設立と
　　第二次世界大戦期における台湾社会の清酒文化
　林　佩欣（国立台北大学海山学研究センター研究員）…… 193

第10章　東亜同文書院生の大調査旅行の記録にみる台湾へのまなざし
　塩山正純（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）…… 209

第４部　平和のなかにくすぶる紛争の火種

第11章　米韓安保政策の共鳴と齟齬
　　──「未来型包括的戦略同盟」のなかの韓国「自主国防論」
　倉田秀也（防衛大学校人文社会科学群教授）…… 235

第12章　「台湾問題」と日本の対応
　五十嵐隆幸（目白大学外国語学部准教授）…… 249

紹介
「霞山アカデミー近現代東アジア研究叢書」第4巻
『経済産業から浮かび上がる日本、台湾社会
歴史的背景、現代社会の実相』
（小山三郎責任編集　霞山会 2026年3月）…… 273

凡例…… 276

あとがき…… 277